

京都市長選挙の結果をうけて

2月4日に投開票が行われた京都市長選挙は、私たちの顧問弁護士でもある福山和人さんが16万1,203票（投票率41.67% 松井氏：17万7,454票）を獲得しました。無党派層や女性では松井氏を上回るなど、大健闘をしましたが、残念ながら当選に至りませんでした。

現市政は2倍に膨張した地下鉄東西線建設や京都高速道路など、大型公共事業による借金が原因の財政難で不安をあおり、黒字であるにもかかわらず民間保育園への補助金削減、敬老乗車証の負担増など、住民サービスを53億円もカットしました。それに加え、インバウンド優先・ホテル建設ラッシュによる地価高騰や「子育て環境日本一」とは真逆の遅れた子育て施策などの原因で3年連続人口減少全国1位となるなど、子育て世代の人口流出を深刻化させました。さらに、新型コロナ感染拡大の中で、元々脆弱だった京都市の医療や介護の体制のため、救えるはずの命が救えず受けられるはずの医療が受けられない事態が起きました。その最大の原因は医師・看護師・介護職員不足の放置や保健所の統廃合でした。

わたしたちは、医師・看護師・介護職員不足の解消、保健所を元の行政区にひとつに戻すなど、市民のいのち、くらし、安全のために、国政からの防波堤となる市長が必要と訴え、福山さんとともに選挙を闘いました。「政治とカネ」問題への市民の批判と怒りの声も大きく、福山さんに期待が集まる中、多くの市民からビラを快く受け取られ「応援しています。頑張ってください」のメールもたくさんいただきました。

診療所前宣伝に多数が参加したU労組、病院前宣伝に奮闘したK労組・J労組、「洛西ニュータウン病院存続・充実へ向けて財政支援を含む必要なサポートを」とタウンミーティングで訴えたR労組委員長、「患者さんのための看護が出来なくなっている現状を変えたい」と演説会で弁士デビューしたK労組委員長、「以前にお世話になった弁護士」と職場の仲間や友人・家族にも福山支持を広げた単組役員、など、今までに無かった新たなドラマが数多く生まれました。どれも福山さんの掲げる政策に共感を持ち、自分たちの身近な選挙として受け止め、考え、行動しました。これらは、わたしたちの何よりも大きな財産となるでしょう。

あわせて、全国から物心両面でご支援をいただきました。残念ながら、よい結果となりませんでした。皆さんからの心温まるご支援・激励に心から感謝を申し上げます。

今後も、わたしたちは、福山さんが掲げた政策の実現を求めて、今後も幅広い人たちと協力して運動を進めて行く決意です。

2024年2月6日

京都医療介護労働組合連合会
執行委員長 勝野 由起恵

